

(換算係数法と年次算定法)

換算係数法:費用及び便益を、換算係数により現在価値化する方法(算定方法は第Ⅱ編を参照のこと)

年次算定法:各年度の費用及び便益を、個別に現在価値化する方法(算定方法は第Ⅲ編を参照のこと)

表 I -4.1 換算係数法と年次算定法の比較

項 目	換算係数法	年次算定法
費用算定法	総費用を、換算係数で現在価値化する。	整備スケジュールに基づいて費用を算定し、社会的割引率で現在価値化した上で、合算する。
便益算定法	評価時点における便益を、換算係数で、算定期間中の現在価値化された総便益に換算する。	各年度の需要水量等に基づいて便益を算定し、社会的割引率で現在価値化した上で、合算する。
費用・効果の発生時期	考慮されない。	考慮される。
算定期間中の更新費用(再投資価格)	換算係数に含まれる。	耐用年数に基づいて、整備スケジュールを作成する。
残存価格	換算係数に含まれる。	評価の最終年度に残存価格を計上し、現在価値化した上で、費用から控除する。
感度分析	実施しない。	費用便益比(B/C)が 1.5 未満の場合は実施する。